

「総合的な学習の時間」の実践と課題に関する調査

—静岡県内の公立高等学校を対象に—

森 和彦

1 はじめに

授業を担当している学生に高校時代を振り返ってもらい、「総合的な学習の時間」の状況を尋ねると大学進学
の準備に追われ、学習科目の選択や入試科目調べなどの要素が強く、大学で学ぶ内容などに触れてはいるもの
の、自らの職業観や生き方在り方までは、考えさせていない印象を受ける。

この原因は、保護者も教員も受験のための進学指導に、高校の教育活動を単線化することに力を注ぎ、その他
の活動を軽視していることにあると思う。受験教科の数値的学力向上に直接結びつかない、「総合的な学習の時
間」や「課題研究」のような探究活動は、高校生活という限られた時間を考えると、受験などの不安を増大させ
るハードルがあり、多くの時間や負担を費やすことができないのではないだろうか。その結果、内容が充実して
いなかったり、趣旨と異なったりすることになるのではないだろうか。

「総合的な学習の時間」について、実践に関する提案は、インターネット上にもいくつかあるが、実施状況や
教育効果を研究した例は、日本生活科・総合的学習教育学会による「総合的学習で育った学力調査の中間報告」
(2014年6月)しか見当たらない。河合塾の「ガイドライン」(2014年11月)では、これに関連し高校教員の意
識をWEBにより追加調査し、それに基づいて特集掲載している。これらの結果は、興味深いものであるが、自
分が長く奉職してきた身近な公立高校の実態を直接調べてみることで、今後に活かしたいと思った。

このような理由から、「総合的な学習の時間」の目標を再確認し、学校運営との関り、教職員の意識などを調
査し、より良き実践を模索していく資料としたい。本研究は、静岡県内の公立校で取り組まれている「総合的な
学習の時間」の実態を、静岡県内の公立高等学校を対象にアンケート調査し、現状の実施状況から、教育課程
(カリキュラム)の工夫、運用方法、テーマ設定、テーマの傾向、職員の意識傾向など、様々な視点から分析し、
検証する。高等学校における「総合的な学習の時間」の実践改善へのヒントが、見つければ幸いである。

2 目的

「総合的な学習の時間」は、高等学校学習指導要領(文部科学省, 2009)で次のように述べられている。

第1目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断
し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決
や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるよう
にする。

第2各学校において定める目標及び内容

1 目標 各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。

2 内容 各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（文部科学省，2009）では、以下の様に解説されている。

総合的な学習の時間の目標は、

- (1) 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- (2) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- (3) 学び方やものの考え方を身に付けること
- (4) 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- (5) 自己の在り方生き方を考えることができるようにすること

という五つの要素から構成されている。この五つの要素のうち、(1)は、総合的な学習の時間に特有な学習の在り方を示している。すなわち、総合的な学習の時間においては、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すことが目標であり、これを前提にして、(2)(3)(4)に示された資質や能力及び態度を育成していくことを求めている。総合的な学習の時間では、これらの資質や能力及び態度を育成しつつ、(5)に示された自己の在り方生き方を考えることができるようにすることを目指している。これらは、総合的な学習の時間を通して育成したい生徒の姿でもある。

このことから、学校の教育目標を実現するためには、教育課程編成の工夫や実践によって、生徒の自立と社会性を育み、学校から社会へのつながりに重要な役割を果たすことができ、「生きる力」を向上させるものと考えている。

しかし、内容については、各学校の創意工夫に任されており、多様な実践が行われている。今までに、効果的な事例も紹介されているが、学校や地域の状況によって様々な実態が推察される。

この調査研究は、静岡県内の高等学校における「総合的な学習の時間」の取り組みの実態と現状の課題を調査、考察し、教育課程の中で効果的に活用するための資料とすることを目的としている。

3 方 法

静岡県内の可能な限り多くの公立高等学校に依頼し、管理職、教務主任など「総合的な学習の時間」実践の中心となっている教員にアンケート調査を実施し、得られた回答について分析・考察を行う。

4 調査対象と具体的手段

公立高校については、所管する静岡県教育委員会及び公立高等学校長協会に公立高校への一斉調査依頼許諾を得て、アンケートを公立高等学校長協会からメールで一括配信し、回答を実施者にメールで個別返信するよう依頼した。私立高等学校は、メールアドレスが把握できておらず、所管する組織も把握できていないため、調査対象としなかった。2017年6月上旬メールにより一斉送信し、回答送信を7月10日までとし、回収した。

5 アンケート調査内容

(1) 学校規模、課程、学科

学校規模の大小に関わらず、静岡県内の公立高等学校すべてに、メール配信し、メール回答されたものを集計し、検討考察資料とした。また、複数課程設置校は、同じ様式で複数回答しており、集計に加えている。

学科については、最も在籍数の多い学科を第1学科として回答し、他の学科もあれば同様に第2学科として回答を依頼した。3学科以上ある場合は、学校に2学科選択を依頼し、2学科以内の回答とした。

(2) 「総合的な学習の時間」、「課題研究」の教育課程上の位置

探究的学習活動としてどちらを実施しているか、実施学年、単位数を調査した。職業教育を主とする専門学科については、「課題研究」を「総合的な学習の時間」の代替として、読み替えている学校もあるので、読み替えている学校については、「総合的な学習の時間」を「課題研究」に置き換えて回答するよう指示した。また、両方実施している学校もあり、該当校は「総合的な学習の時間」について回答するよう指示した。

(3) 「総合的な学習の時間」の実施形態の調査

「総合的な学習の時間」は時間割に位置づけたり、期間を決めて集中的に実施したりすることができる。教育課程の工夫として、(2) で回答した単位数をどのように時間割に位置付けているか、また、集中的実施の場合の時期と期間、実施上の配慮、関連する学校の教科・科目などを調査した。

(4) 学校テーマの設定と学校の教育目標との関連

「総合的な学習の時間」は、学校の教育目標に沿って育てたい生徒像と連動し、どのような学習内容（分野）のテーマの学習活動でそれを育むのか、明確にしていく必要がある。また、このことを教員と指導する関係者が意識して取り組むことは、生徒の成長に重要な意味をもっている。よって、学習内容のテーマ設定・体系化、学校教育目標との関連、教職員の意識、計画・実践に関する意識を調査する。

(5) 研究指定との関連

近年、高等学校の特色化として、文部科学省が募集した、SSH（スーパーサイエンス）、SGH（スーパーグローバル）、SPH（スーパープロフェッショナル）などの研究指定事業と関連付けて「総合的な学習の時間」を実践している学校もあり、連動させた組織を独自に設けている学校も見られる。

このことから、教育課程の編成上の変化、予算配分なども可能な範囲で調査した。

(6) 実践に伴う教員組織と負担感、配慮事項

「総合的な学習の時間」を含む探究活動は、これからの教育課程編成に根付き、継続性をもって実践されていく必要がある。したがって、実践活動に対する教員の組織、関わる意識、充実感、負担感などを調査することも、今後の運用に意味がある。

(7) 教員が感じる生徒の変化と教員の感想

今までの実践活動で、教員自身が意識変化を感じたり、生徒の変化を感じ取ったりすることは、継続する意欲を持つために不可欠である。しかし、肯定的なもののばかりとは限らないので、その程度も調査したい。

(8) 生徒が感じる自身の成長感と感想

今まで実践してきた生徒の感想、意識調査があれば、その集計結果から提供してもらう。新たな生徒調査は学校負担が大きいので行わず、適合するものだけ回答してもらう。（提供可能な範囲で調査する）

(9) 今後の課題と継続性

自由記述で、思うところを記述してもらう。

6 アンケート結果及び考察

(1) 調査回答について

静岡県の公立高等学校 90 校に、静岡県高等学校長協会から、メールで一斉送信し、課程ごと個別にメール返信で回答を回収したが、90%以上の 84 校の学校から回答を回収でき、6 校のみ回答返信がなかった。

表 1 「調査回答数」

	配布数	回答	未回答	回答率(%)
高校数	90	84	6	93.333
課程（全定通）	115	90	20	78.261
全日制	89	83	6	93.258
分校	5	1	4	20
全日制大学科数	115	107	8	93.043
普通	60	54	6	90
総合	10	9	1	90
理数・科学	11	11	0	100
国際・英語	3	3	0	100
芸術	2	2	0	100
福祉	3	2	1	66.667
農業・水産	5	5	0	100
工業	8	8	0	100
商業系	13	13	0	100
定時制	20	6	14	30
普通	17	4	13	23.529
工業	2	2	0	100
商業	1	0	1	0
通信制	1	1	0	100

全日制大学科の回答

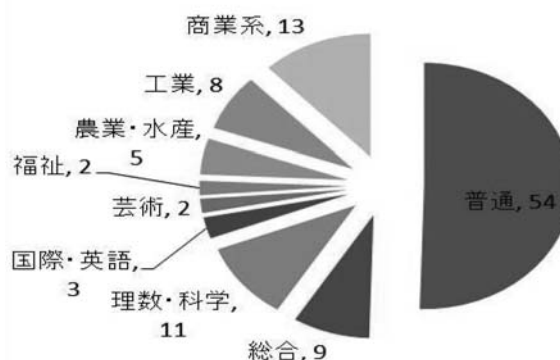


図 1 回答した大学科の割合

表 2 「総合的な学習の時間」と「課題研究」のどちらを実施しているか

	総合	課題	両方	計
普通	51		3	54
総合	6		3	9
理数・科学	1	1	9	11
国際・英語	2		1	3
芸術	2			2
福祉		2		2
農業・水産		3	2	5
工業		8		8
商業系	3	6	4	13
合計	65	20	22	107

また、全日制課程に設置されている大学科の 93%（107 の大学科）について回答を得られたが、分校は 20%（1 校）、定時制課程は 30%（6 校）、通信制は 1 校のみのため、集計・考察の対象としないことにした。（表 1）

前述のように、全日制課程の大学科について、回答数が 100 を超え、高い回答率を得られたので、全体の傾向を知ることができると思われる。しかし、学科ごとの回答数は、5 未満と少ない学科もあり学科別に傾向を一般的に述べることはできない。

また、回答を得られた全日制大学科の割合を、グラフで示したものが図 1 である。職業教育を主とする専門学科（農業、水産、工業、商業系）の回答数計は 26 で約 24%、4 分の 1 に相当する。普通科の回答数は 54 で、全体の約 50%に当たる。それ以外の学科（総合、理数、国際等）が約 4 分の 1 を占め、全体構成が分かる。

(2) 総合的な学習の時間の実施と課題研究

「総合的な学習の時間」と「課題研究」でどちらを実施しているかでは、表 2 のような結果になった。普通科の大部分の学校が、「総合的な学習の時間」のみを実施しているが、両方実施している学校が 3 校あった。また、理数科系では、ほとんどの学校が両方を行っていることが、注目される。一方で職業教育を主とする福祉、農業・水産、工業、商業系は、多くが課題研究を実施している。

表3 「実施学年」

	1年	2年	3年	最大
普通	54	54	50	54
総合	5	8	9	9
理数・科学	9	11	7	11
国際・英語	3	3	3	3
芸術	2	2	2	2
福祉	2	2	2	2
農業・水産	1	4	5	5
工業		1	8	8
商業系	7	5	13	13
合計	83	90	99	99

表4 「1学年で2単位以上実施」

	2以上	1年	2年	3年	計
普通		1	3	0	4
総合		0	2	5	7
理数・科学		2	6	0	8
国際・英語		0	0	0	0
芸術		0	0	0	0
福祉		0	0	0	0
農業・水産		0	2	4	6
工業		0	0	8	8
商業系		1	1	10	12
合計		4	14	27	45

表5 総合的な学習時間の実施形態

	実施科数	時間割	間割無	長期	特定
普通	54	49	5	2	16
総合	9	9			
理数・科学	11	10	1	1	4
国際・英語	3	3			
芸術	2	2			
福祉	2	2			
農業・水産	5	5			
工業	8	8			
商業系	13	12	1		3
合計	107	100	7	3	23

表6 時間割での位置

	時間割	567限	以外不明
普通	49	44	5
総合	9	2	7
理数・科学	10	7	3
国際・英語	3	1	2
芸術	2	2	0
福祉	2	2	0
農業・水産	5	1	4
工業	8		8
商業系	12	4	8
合計	100	63	37

(3) 学年進行と実施単位数

実施学年は、表3のとおり、普通科から福祉科までは、各学年であまり大きな数値変化がないので、ほぼ均等に実施されている。農業から商業までの専門学科及び総合学科は、3年時の実施校が多くなっており、専門教科と結びついた探究活動と考えられる。

また、表4のとおり学年で2単位以上を設定している学科数では、専門学科と理数科、総合学科に多く、「課題研究」のみ、または両方を実施している学校がほとんどであった。「総合的な学習の時間」のみ設定して学年で2単位以上実施する学科が、普通科に3学科、総合学科に2学科あったが、普通科は2年までに実施を終了している。総合学科は、2年・3年次に2単位以上実施する学科がほとんどで、専門学科を改組して設立された学校もあり、その名残ではないだろうか。

(4) 「総合的な学習の時間」と「課題研究」の実施方法

表5のとおり、107学科のうち、100学科が時間割に位置付けて実施しており、7学科が、長期休業中あるいは、特定の期間のみで単位数相当の時間を実施している。また、特定の期間に実施している学科は23学科あるので、時間割内に実施しきれない部分を補充等に充てていると考えられる。

時間割で位置付けた100学科では、表6のとおり午後の時間帯に当たる、567限での実施が63学科であり、

表7 曜日ごとの実施数

曜日	月	火	水	木	金	土	不明
実施科数	18	12	12	25	13	1	28

表8 全体テーマ、年テーマの有無

	全有	1年	2年	3年	全無	1年	2年	3年
普通	41	31	31	27	13	11	11	11
総合	6	4	5	6	3	3	3	3
理数・科学	8	4	5	4	3	6	6	3
国際・英語	1	0	0	0	2	2	3	2
芸術	2	2	2	2	0	0	0	0
福祉	1	0	0	0	1	2	2	2
農業・水産	2	1	2	2	3		2	3
工業	0				8		1	8
商業系	7	5	3	3	6	2	1	9
合計	68	47	48	44	39	26	29	41

テーマ有・無

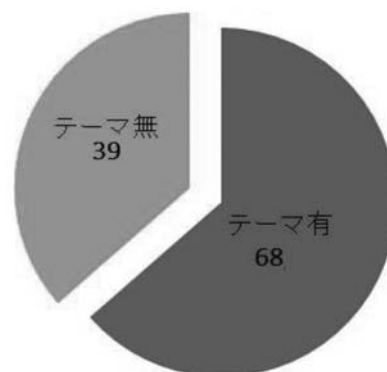


図2 全体テーマの有無

午後の時間帯を実施中心に充てていることが分かる。それ以外は、午前か実施時間帯不明である。

表7のように曜日ごとの実施集計も行ったが、月曜日が18学科、木曜日が25学科とやや多く、他の平日は、ほぼ均等であった。実施曜日不明の回答も多く、曜日との関連は無いと思われる。

(5) 全体テーマ、学年テーマ、内容について

実施学科の64%に当たる68学科が、全体としてのテーマを持っており、その約4分の3は、学年毎にもテーマを掲げ、体系的な取り組みをしている。普通科で、全体的テーマは無いが、学年テーマを設定している学科が2学科あった。専門学科は、全体テーマ未設定が多いが、設定している学科は、「在り方生き方」に関するテーマが多かった。専門学科は、専門技術に関する探究的テーマが明確なので掲げていないようだ。(表8, 図2)

活動内容についても、探究活動を中心とした記述が見受けられ、全て学習指導要領に則った運用だった。

(6) テーマ領域について

どのような領域のテーマ活動であるか、調査したところ、表9のように進路関係の「キャリア教育」,「学部学科研究」,「地域産業」が多かった。「受験方法(教科)」,「生活環境」に関わることも、次いで多く活動領域とされている。専門学科では、専門科目に関する領域が多く、キャリア教育、地域産業に関わる領域と連動しているような印象を受けた。これを学科別にグラフ化したものが図3である。

(7) 研究指定との連携について

国の研究指定事業であるSSH(スーパーサイエンス)は、理数科3校、工業1校で計4校、SGH(スーパーグローバル)は普通科1校、SPH(スーパープロフェッショナル)は、水産科1校の回答が得られた。県の研究指定事業でサイエンスアドバンスが、普通科1校、理数科2校計3校、学力向上アドバンスが、普通科2校、ネオアドバンスが普通、総合、工業、商業、各1校ずつ、グローバル事業指定が普通科1校で、合計14校15学科から回答を得た。そのうち5学科は、全く独立して「総合的な学習の時間」を実施し、5学科は一部を研究指定に充てている。SSHの2校は、全ての「総合的な学習の時間」を研究指定に充てており、総合学科のネオアドバ

表9 全体テーマの領域

テーマ領域	キャリア教育	学科研究	受験方法	地域産業	生活環境	普通教科	体育芸術	家庭福祉	専門科目	領域無し
記号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
普通	48	43	19	21	10	3	0	1	1	5
総合	9	3	0	5	1	2	1	0	3	0
理数・科学	8	7	1	4	4	5	0	0	1	1
国際・英語	1	2	1	0	1	0	0	1	0	1
芸術	1	1	0	2	1	0	1	0	0	0
福祉	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
農業・水産	2	1	0	2	2	0	0	0	4	0
工業	1	0	0	1	2	0	0	0	8	0
商業系	9	3	1	8	3	0	0	0	7	0
合計	80	60	22	43	24	10	2	3	25	7

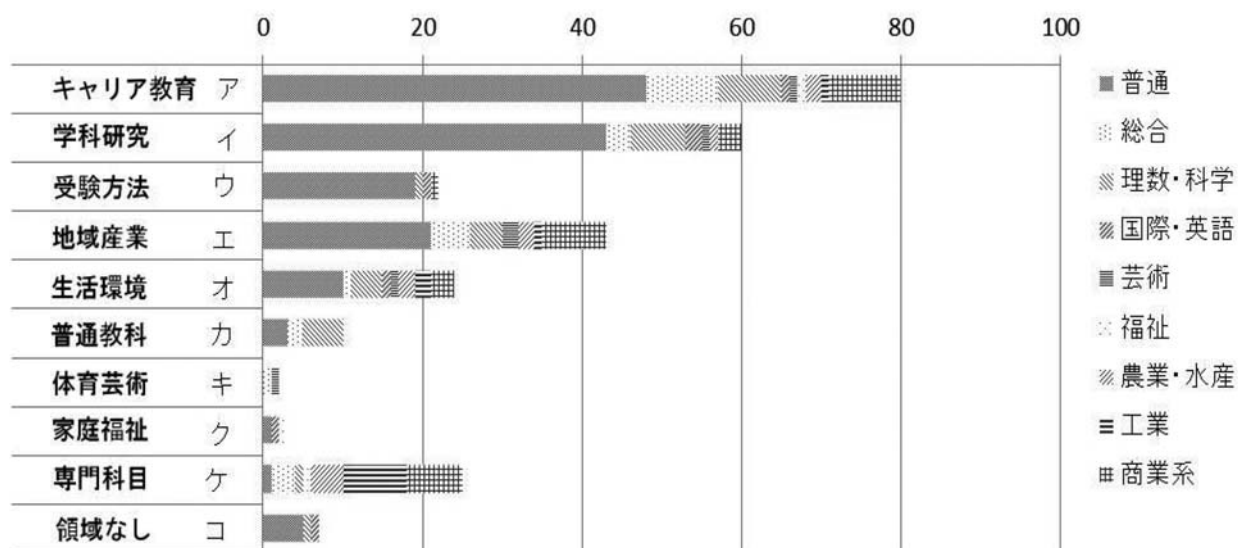


図3 全体テーマの領域 (大学科別)

ンス事業も、大部分を充てている。

予算立てについては、回答した学科数がさらに少ないため、参考程度だが、国指定のものは、かなり割合を占めており、SSHは80～100%、SGHも100%と回答していた。

(8) 学校での運営上の組織について

学校での運営上の組織に関する項目の回答の有効数は81校だった。

表10のとおり、32校が、運営のための組織を位置付けており、その3分の2に当たる22校が、副校長または教頭の管理職を組織の中に含めている。また、組織の構成人数は、学校規模の大小にもよるが、平均人数は8.86人であった。「〇〇未来委員会」など、学校の将来発展を望む名称もある。

一方、組織を設けていない学校も、分掌を中心に位置付ける学校が49校中28校と多くを占め、複数の分掌で検討し、教科系列の協力を得て実践する学校が多い。いずれにしても、組織的に検討し、クラスで実践する基本

表 10 運営上の組織について

	組織有	管理職含	教諭等	不明	組織無	分掌中心	教科系列	クラス等
普通・理数等	26	19	7		29	23		6
総合系	4	2		2	5	2	3	3
専門学系	2	1	1		15	3	12	12
合計	32	22	8	2	49	28	15	21

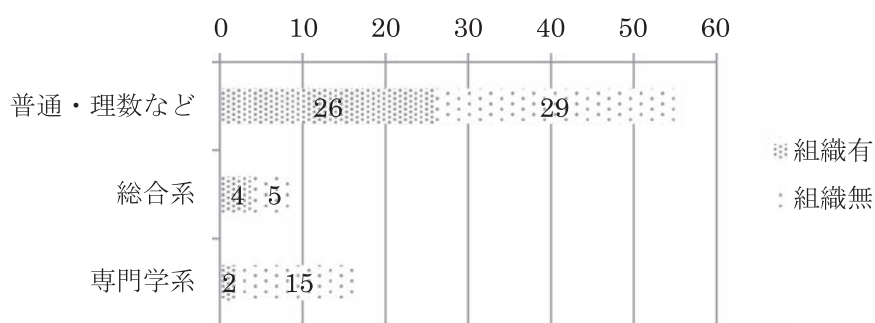


図 4 運営上の組織の設置

は、変わらないと思われる。専門学系は、クラス毎に学ぶ系列や学科が異なり、系列＝クラスとなる場合が多く、計画段階からクラスに任せて運用されていると推察できる。（図4）

(9) 教師の負担感と楽しさ

表 11 教師の負担感

	ア負担感無	イ有良	ウ校務	エ消極	オ重荷	他	計
普通理数等	2	28	17	7		1	55
総合系		4	4			1	9
専門学系	5	6	2		3	1	17
合計	7	38	23	7	3	3	81

表11の様に負担感を感じていないのは、1割以下の7校であるが、半数近くの38校が、負担感はあるものの良いことと感じている。

積極的になれない、または重荷と回答した（エ、オ）は、10校ほどあるが、概ね良い活動だととらえている。しかし、その他も3校あり、質問方法が解釈によっては、回答しにくかったようだ。

また、教師の楽しさについては、表12のように、26校が感じており、「楽しさは少ないが充実感はある」と回答した学校と合計すると、85%の69校に当たる。

表 12 教師の楽しさ

	ア楽充	イ楽少	ウ校務	エ疑問	オやめ	その他	計
普通理数等	17	31	4	1		2	55
総合系	2	4	2			1	9
専門学系	7	8	1			1	17
合計	26	43	7	1	0	4	81

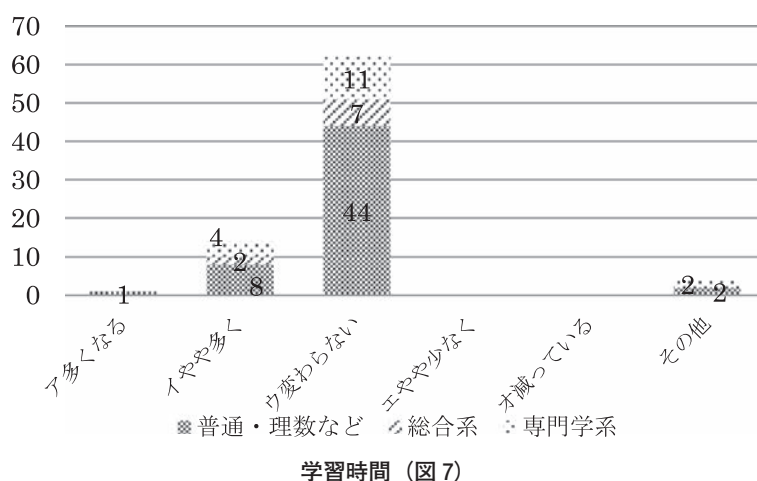
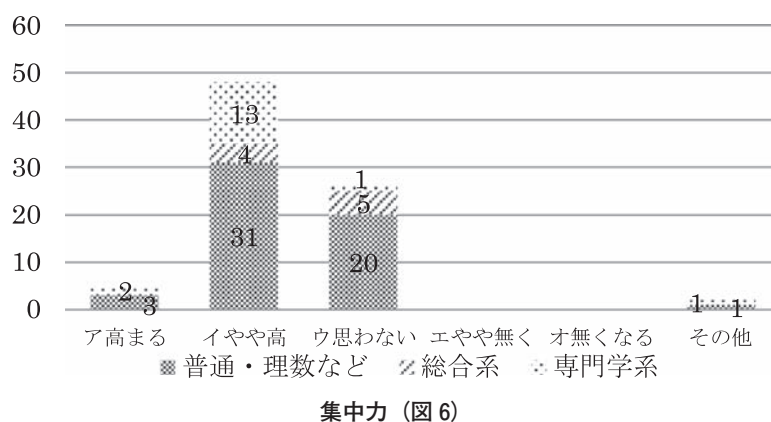
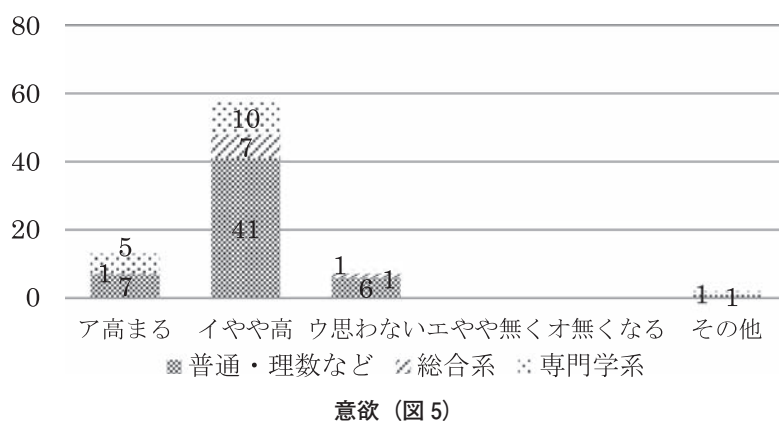
このことから、「総合的な学習の時間」のような、探究活動は、教師に負担感はあるが、楽しく充実した活動として考えていることが分かる。また、「校務としての楽しさはある。」と記述した学校もあった。

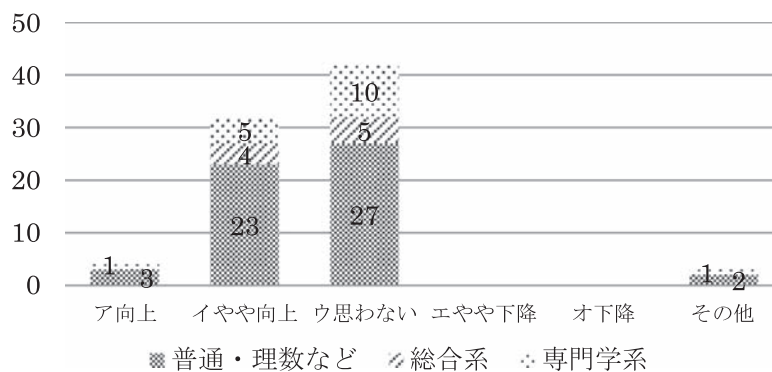
これらの回答を肯定的数値として、ア-5、イ-4、ウ-3、エ-2、オ-1として平均値をとってみると負担感3.5、楽しさは4.22であり、負担感はあるが、充実し楽しさを感じる活動と、とらえていることが分かる。

(10) 教師から見た生徒の変化

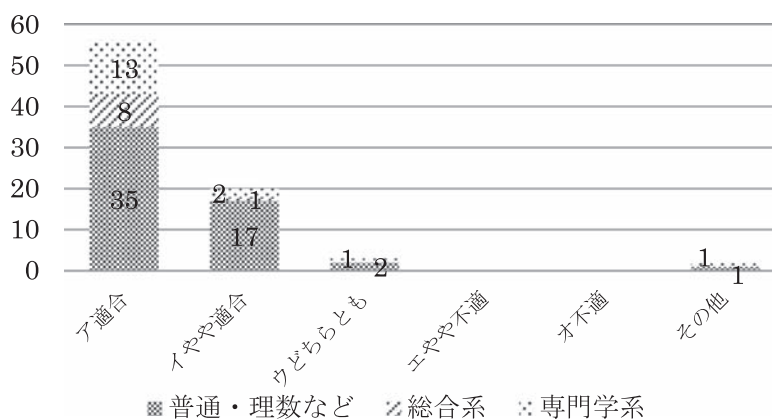
教師から見て、活動を通してどのように生徒の変容を感じているか調査したところ、意欲（図5）と集中力（図6）については、グラフのような傾向がみられ、肯定数値も意欲が4.06、集中力が3.73と高く、理由としても「活動の様子が生き生きしている」などの意見が寄せられた。

しかし、学習時間（図7）と学力の向上（図8）に対しては、グラフのように「変わらない」「そう思わない」





学力向上 (図 8)



学校目標 (図 9)

とする意見が多く肯定数値も、学習時間が3.21、学力が3.53と意欲などに比べて低かった。

また、学校目標に沿った適切な活動かどうかという調査に対しては、図9の様に、非常に高い肯定感を抱いており、数値の平均は、4.67であった。学校の教育目標の中に、探究的な活動で育まれるものが含まれていることが分かる。

(11) 生徒の感想の印象

生徒が、活動をどう感じたか回答できる範囲で調査した。良かったと感じている、肯定数値は4.08、向上を感じている肯定数値は3.89で、分布は図5のような形状だった。教師は、「生徒自身も良いことだと思っている。」と考えている。

負担を感じた生徒の肯定数値は、2.55と低く、教師は「生徒は大変さを感じていない。」と思っている。つまり、「在校生は負担をあまり感じずに、取り組んでいるだろう」と判断し、実践していることになる。

(12) 今後の課題

多くの学校が、課題として挙げていたのは、人としての前向きさや、学力の内発的動機が、啓発されることに賛同し、肯定的な記述がみられるが、進学のための数値的学力の向上に結びつきにくいことを指摘していたことである。「総合的な学習の時間」や「課題研究」のような、探究活動の所為ではないが、「職員が減少してきている中で、どのように「総合的な学習の時間」を運営していくか。」「LHRや学校行事などで行うこともできると思われる。授業時間が増えている中、負担が大きくなっている。」といった、教員の負担感・多忙感から、精神的な余裕が感じられない記述があった。教員の「負担感」「多忙感」への対応は、探究活動充実のために、不可欠であろう。

7 おわりに

アンケートの結果から、静岡県内の公立高校は、約6割が「総合的な学習の時間」のみを、2割が「課題研究」のみ、2割が両方をカリキュラムに位置付けている。普通科の大部分は「総合的な学習の時間」のみ、理数科の大部分は両方、専門学科の大部分は「課題研究」のみ、となっており大学科の特徴と言える。

ほとんどの学科が、各学年均等に1単位を位置付けている。3年次に実施数が、普通科、理数科は減少するが、総合学科、専門学科は増加している。また、学年で2単位以上実施し、比重をかけているのは、専門学科3年生と総合学科3年生で、知識技能の集約応用として探究活動を位置付けていると考えられる。また、理数科と少数の普通科にも2単位以上の実施があり、2年生である。探究活動のまとめを進学の意欲につなげていく考え方だと思われる。進学実績を求められる学校のやり方としては、参考になるだろう。

実施形態としては、ほとんどの学科が時間割に位置付けており、時間割に組み入れていない学科は僅かに7学科だった。長期休業中の実施は3学科のみで非常に少ない。また、特定の期間の実施は、23学科(約20%)あり、普通科、理数科、商業科だった。まとまった時間に集中的に行うことと、時間割の中で行うことの特徴を考慮して併用することも、活動内容に時間に応じた工夫や変化が生じるので良い手法だと思う。

時間割に位置付けている実施時間の、ほとんどが午後の時間割であり、活動的なことなので午前からだて慌ただしい印象があるからかもしれない。曜日ごとの実施傾向は、見られなかった。

学校全体としてテーマを持っている学校は、約3分の2ありその4分の3は、学年テーマをもって体系的な流れを形成している。専門学科は、専門技能に関する探究的活動が「課題研究」の目的となるのでテーマを掲げていないことが多い。

テーマとしては、キャリア教育、進路に関する学部学科研究、地域との連携・産業に関することの3つが多く、将来に対する考えを学習意欲に繋ごうとする意図が感じられる。専門学科は、就職を見据えて地域連携や産業に関連する活動をしていこうとする意図も理解できる。

指定研究との連携については、国指定のものは負担も大きく、予算もつくので「総合的な学習の時間」を連動させているが、県の指定事業では規模も小さいので、目立った連動はなかった。

全体の3割を超える学校が、運営のための独自の組織を持っており、副校長、教頭の管理職を含んでいる場合が多い。最後の質問項目の「学校目標に合致している」では、「適合」「やや適合」と答えた学校で、94%を占めていた。このことから、学校目標から学校経営計画を作成していく校長、その意向をくみ取り積極的に実践計画を立てて進めていく管理職の関りが、もっと多いだろうと予測したが、意外に少なかった。学校目標の実現、学校経営計画、探究活動の関連が、浸透し自覚されてきている傾向にあると思う。組織は無いが、分掌、学年と複数で検討しており、計画段階では組織的な対応が感じられる。

教員の意識調査として負担感と楽しさを例に挙げて調査したが「負担感はあるが、良い活動」「楽しさよりも充実している」と感じている教員が多く、肯定的な数値は高い。また、生徒の意欲や集中力は高まるが、学習時間、学力の向上とは結びつかないと感じている。学校の教育目標との連動は強く感じている。また、生徒も同様に感じているはずと考えている結果になった。本研究では、教員の「負担感」については、文章記述の把握程度で、検討することができなかった。この点は、今後の課題としたい。

以上、静岡県の高等学校における「総合的な学習の時間」は、ほぼ、本来の趣旨・ルールに沿った運用と活動が実践されており、教員の多くは肯定的に考えている。しかし、それが「学習時間増加」「学力向上」には、及んでいないと感じている。この理由は、生徒自身がこの活動から、職業観に繋がる学びの将来像を描けず、学習の必要性に昇華できていないと考えられる。

「総合的な学習の時間」の準備、実践、考察の配分については、本研究の調査では明らかにできなかった。実践改善へのヒントであるが、考察の部分で、生徒自らが活動を振り返り、何故学ぶかという疑問を自らに投げかけ、「どんな力を身につけ、向上させ、どんな社会生活を送る大人になりたいのか。」考える時間を持つことが必要であろう。単発的な活動の振り返り時間ではなく、将来像を描くきっかけとし、ホームルーム活動、教科指導

と関連付けてカリキュラムを工夫し、継続的に考えていく機会をもつことに繋げたい。自分の将来像を具体的に描き、「何を学び、どんな努力が必要なのか。」そして、「より高い知識や技術習得のために、学力の向上が必要である。」ことに気づかせ、「進学は、その為の大きな手段である。」と位置付けることができれば、学習意欲の喚起と努力の意義を自覚し、「総合的な学習の時間」は「学習時間増加」「学力向上」にも効果を発揮するのではないだろうか。

また、教員の負担感に対する意識改革は、「負担感はあるが、楽しく充実した活動である。」と85%以上の学校で回答していることで、対応の指針を考えることができる。「共に活動を実践し、共に学ぶ楽しさ。」を教員自身が再確認し、意識できれば、教員の意欲向上と負担感軽減につながると考える。ホームルーム活動、教科指導との関係性を整理したカリキュラムマネジメントをすることで、実質的な時間負担軽減も考えられる。

8 謝辞

アンケートに関しまして、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校長協会及び事務局に、多大なご支援をいただき、お礼と感謝を申し上げます。また、調査に協力いただきながら、除外させていただいた部分があったことを、お詫び申し上げます。

〔参考文献〕

- ・高等学校学習指導要領 平成21年3月 文部科学省
- ・高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編 平成21年12月 文部科学省
- ・今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校篇）平成25年7月 文部科学省
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1338359.htm
- ・「河合塾」「ガイドライン2014.11」http://www.keinet.ne.jp/gl/14/11/toku_1411.pdf
- ・日本生活科・総合的学習教育学会による「総合的学習で育った学力調査の中間報告」（2014年6月）
（中央教育審議会、教育課程部会 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ（第6回）配付資料7）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/064/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/05/23/1370879_5_1.pdf

〔資料〕 依頼したアンケート用紙（メール送信）

静岡県の公立高等学校における

「総合的な学習の時間」の取り組み状況に関する調査研究（アンケート）

この調査は、高等学校における「探究的な学習活動」の一つとして位置づけられている「総合的な学習の時間」の取り組み状況の実態と課題を調査、考察し、教育課程の中で効果的に活用する手法を模索するためのものです。

これは、静岡県教育委員会の了解のもと、静岡県高等学校長協会の協力で各高等学校にメールで、配布しております。

各学校の管理職または「総合的な学習の時間」（「課題研究」で代替している場合は、「課題研究」）の取りまとめを行う教諭（教務主任など）が、回答してください。また、回答はメールによる返信で、お送りください。

また、回答データは本研究調査のみに使用し、得られた分析・研究結果などは、東海大学課程資格教育センター論集に掲載するとともに、静岡県教育委員会、静岡県高等学校長協会に提供することをご了解ください。

1 学校名〔該当を○で囲み，（ ）を記入ください〕

県、市、私_____立_____高等学校
課程 全日制，単位制，定時制，通信制

学科（2学科以上存在する場合は、生徒在籍数の多い学科から第1学科，第2学科としてください。また、同数の場合は回答者が第1，第2を決め，2学科以内で回答してください。）

(第1学科) 普通科, 総合学科, 専門学科 ()

(第2学科)〔無い時は空欄〕 () 科

※専門学科は（農業，工業，商業）のみ記入ください。

第2学科は、専門高校の学科は該当しません。(国際科、英語科、理数科などです。)

2 学校規模

2-(1)-1 (第1学科クラス数) 1年 2年 3年

2-(1)-2 (第1学科男女別数) 1年男 2年男 3年男 合計男

1 年女	2 年女	3 年女	合計女
------	------	------	-----

1年計	2年計	3年計	合計
-----	-----	-----	----

※第2学科が設置されていない場合は、3へ

2-(2)-1 (第2学科クラス数) 1年 2年 3年

2-(2)-2 (第2学科男女別数) 1年男 2年男 3年男 合計男

1年女	2年女	3年女	合計女
-----	-----	-----	-----

1 年計	2 年計	3 年計	合計
1,000	2,000	3,000	6,000
2,000	4,000	6,000	12,000
3,000	6,000	9,000	18,000
4,000	8,000	12,000	24,000
5,000	10,000	15,000	30,000
6,000	12,000	18,000	36,000
7,000	14,000	21,000	42,000
8,000	16,000	24,000	48,000
9,000	18,000	27,000	54,000
10,000	20,000	30,000	60,000
11,000	22,000	33,000	66,000
12,000	24,000	36,000	72,000
13,000	26,000	39,000	78,000
14,000	28,000	42,000	84,000
15,000	30,000	45,000	90,000
16,000	32,000	48,000	96,000
17,000	34,000	51,000	102,000
18,000	36,000	54,000	108,000
19,000	38,000	57,000	114,000
20,000	40,000	60,000	120,000
21,000	42,000	63,000	126,000
22,000	44,000	66,000	132,000
23,000	46,000	69,000	138,000
24,000	48,000	72,000	144,000
25,000	50,000	75,000	150,000
26,000	52,000	78,000	156,000
27,000	54,000	81,000	162,000
28,000	56,000	84,000	168,000
29,000	58,000	87,000	174,000
30,000	60,000	90,000	180,000
31,000	62,000	93,000	186,000
32,000	64,000	96,000	192,000
33,000	66,000	99,000	198,000
34,000	68,000	102,000	204,000
35,000	70,000	105,000	210,000
36,000	72,000	108,000	216,000
37,000	74,000	111,000	222,000
38,000	76,000	114,000	228,000
39,000	78,000	117,000	234,000
40,000	80,000	120,000	240,000
41,000	82,000	123,000	246,000
42,000	84,000	126,000	252,000
43,000	86,000	129,000	258,000
44,000	88,000	132,000	264,000
45,000	90,000	135,000	270,000
46,000	92,000	138,000	276,000
47,000	94,000	141,000	282,000
48,000	96,000	144,000	288,000
49,000	98,000	147,000	294,000
50,000	100,000	150,000	300,000
51,000	102,000	153,000	306,000
52,000	104,000	156,000	312,000
53,000	106,000	159,000	318,000
54,000	108,000	162,000	324,000
55,000	110,000	165,000	330,000
56,000	112,000	168,000	336,000
57,000	114,000	171,000	342,000
58,000	116,000	174,000	348,000
59,000	118,000	177,000	354,000
60,000	120,000	180,000	360,000
61,000	122,000	183,000	366,000
62,000	124,000	186,000	372,000
63,000	126,000	189,000	378,000
64,000	128,000	192,000	384,000
65,000	130,000	195,000	390,000
66,000	132,000	198,000	396,000
67,000	134,000	201,000	402,000
68,000	136,000	204,000	408,000
69,000	138,000	207,000	414,000
70,000	140,000	210,000	420,000
71,000	142,000	213,000	426,000
72,000	144,000	216	

3 実施と教育課程上の位置（「総合的な学習」or「課題研究」，実施学年，単位数，形態）

(1) 第1学科について

3-(1)-1 探究的学習活動として教育課程で、実施しているものを○で囲む。(両方の場合は両方に○)

ア「総合的な学習の時間」 イ「課題研究」

3-(1)-2 実施学年と単位数

1 年 () 單位 2 年 () 單位 3 年 () 單位

3-(1)-3 実施形態 (○で記号を囲む, 両方実施している場合は両方に○をして記入)

ア 時間割に位置付けている 週 () 時間 () 曜日 () 限

イ 特別な期間に集中的に実施している。

イ-1 長期休業中 () 休業中 () 日 計 () 時間程度

イ-2 学期中に期間を設ける () 月頃 () 回 () 時間程度

(2) 第2学科について（設置されていない学校は、回答せずに4へ）

以下第2学科について3-(2)として同じ質問

.....

※ 以降の質問は「総合的な学習の時間」を中心に回答してください。「課題研究」のみしか実施していないときは、「課題研究」について回答してください。

4 大テーマの有無（学校テーマ，学年テーマ，クラステーマ，系統建て）

(1) 学校（第1学科）の探究的活動について

4-(1)-1 全体としてのテーマがありますか？（○で記号を囲み，（ ）に記入）

ア 全体としてのテーマがある

テーマ ()

 $4-(1)-2 \wedge$

イ 特にテーマを設けていない。

 $4-(1)-3 \wedge$

4-(1)-2 全体的なテーマは、学年ごとに体系的テーマを設けていますか？

ア 全体テーマに基づく学年の体系的テーマと活動内容を簡潔にお願いします。

1 年テーマ ()

1 年生主な活動内容

2年テーマ ()

2年生主な活動内容

3年テーマ ()

3 年生主な活動内容

イ 全体テーマはあるが、各学年ではテーマを設けず自由に活動している。

各学年で実施されている主な活動内容

1 年生主な活動内容

2 年生主な活動内容

3 年生主な活動内容

4-(1)-3 特にテーマを設けていない場合、各学年でどのような内容の活動に探究活動の時間（総合的な学習の時間、課題研究）を充てていますか？

1 年生主な活動内容

2 年生主な活動内容

3 年生主な活動内容

(2) 第 2 学科の探究的活動について（第 2 学科が無い場合は、5 へ）

以下第 2 学科について 4-(2) として同じ質問

.....

5 活動内容の領域（テーマ領域を含む）

(1) 学校（第 1 学科）の探究的活動について

5-(1) 主な活動はどんな領域のものを実施していますか？以下から 3 つ以内で○を。

ア キャリア教育（職業観の育成）

イ 進学のための大学、専門学校などの学部・学科研究

ウ 受験のための教科・科目の選択と受験方法に関すること

エ 地域との連携・産業・伝統文化などの活性化に関すること

オ 生活や環境に関連したこと

カ 普通教科に関すること（国語、数学、地歴、公民、理科、英語）教科にも○

キ 芸術や体育に関わること（音楽、美術、書道、体育）教科にも○

ク 家庭、健康、福祉に関すること（家庭、福祉、保健）教科にも○

ケ 専門科目に関すること（農業、工業、商業、福祉）教科にも○

コ 特に領域がなく、その都度必要な領域の活動をさせている。

(2) 第 2 学科の探究的活動について（第 2 学科が無い場合は、とばして 6 へ。）

以下第 2 学科について 5-(2) として同じ質問

.....

6 研究指定の有無（SSH、SGH との関連、教科との関連）

6-1 SSH、SGH などの研究指定を受けていますか？（その他は指定名を記入ください）※ 受けていない場合は、7 へ

ア SSH イ SGH ウ SPH エ その他（ ）

6-2 研究指定と「総合的な学習の時間」をどのように関連付けていますか？

ア 指定研究は、「総合的な学習の時間」のすべてと関連教科・科目

イ「総合的な学習の時間」は、ほとんど指定研究に充てている。

ウ「総合的な学習の時間」の一部を指定研究に充てている。

エ「総合的な学習の時間」は指定研究と全く独立して行っている。

6-3 探究活動のおおよその予算配分を％でお願いします。

研究指定より（ ）％ 学校負担（ ）％

7 教師の組織と負担感

7-1 探究的な活動の企画運営のために新しい組織や委員会を設けていますか？

ア 設けている 名称（ ）

構成メンバー（ ）人 以下関係者に○

（校長、副校長、教頭、教務、進路、生徒、総務、研修、図書、学年主任）

- イ 設けていないが分掌，教科を中心に企画運営する（○で囲む）
 中心分掌（教務，生徒，進路，総務，研修，図書，その他）
 中心教科（国語，数学，英語，地歴・公民，理科，体育，芸術，家庭）
 ウ 設けておらず，学年，クラスに任せている。

※7-2，7-3の間は，回答者の考えでかまいません。

7-2 探究的な活動に対し教師の校務を考えた場合，どう感じていますか？（1つ○）

- ア 通常の校務を工夫しており，校務内容に変化があるので，負担は感じない。
 イ やや負担はあるが，校務内容に変化があるので，良いと思う。
 ウ 負担もあり，校務内容に変化もあるので，校務として消化すれば良い。
 エ 負担があり，校務内容に変化も乏しいので，積極的にはなれない。
 オ 大変な重荷であり，できればやめて，教科活動に専念したい。

7-3 探究的な活動に対して，教師の充実感や楽しさはどうでしょうか？

- ア 生徒と一緒に探究することが楽しく，充実していると思う。
 イ 指導ノウハウや知識に不安を感じるので，充実感はあるが楽しさは少ない。
 ウ 活動を見守り指導するが，校務として捉えており，楽しさも，充実感もない。
 エ 探究活動に疑問を感じ，楽しさや充実感は全くない。
 オ 教科授業ではないので，できれば担当したくない。

8 教師から見た生徒の変化（意欲，集中力，学習時間，学力）

※前年度アンケート調査などがあれば，それに基づき，回答ください。なければ，回答者の印象で回答してください。

8-1 活動により，生徒の物事に対する意欲は高まっていると思いますか？（5段階で）

- ア 高まっている イ やや高まっている ウ そう思わない
 エ ややなくなっている オ なくなっている

理由をお聞かせください（

）

8-2 活動により，生徒の物事に対する集中力は高まっていると思いますか？（5段階で）

- ア 高まっている イ やや高まっている ウ そう思わない
 エ ややなくなっている オ なくなっている

理由をお聞かせください（

）

8-3 活動により，生徒の学習時間は多くなっていると思いますか？（5段階で）

- ア 多くなっている イ やや多くなっている ウ 変わっていない
 エ やや減っている オ 明らかに減っている

理由をお聞かせください（

）

8-4 活動により，生徒の学力は向上していると思いますか？（5段階で）

- ア 向上している イ やや向上している ウ そう思わない
 エ やや下降している オ 下降している

理由をお聞かせください（

）

8-5 学校教育目標に適した活動だと思いますか？（5段階で）

学校教育目標「

」※記入してください

- ア 適合している イ やや適合している ウ どちらともいえない
 エ やや適合していない オ 全く適合していない

理由をお聞かせください（

）

9 生徒の感想と生徒自身が感じる変化

※前年度アンケート調査などがあれば，それに基づいて回答ください。なければ，回答者の印象でかまいませんので回答してください。

9-1 取り組んで良かったと感じる生徒の割合

- ア 80%以上 イ 60%～79% ウ 40%～59% エ 20%～39% オ 20%以下

9-2 自分の向上を感じた生徒の割合

- ア 80%以上 イ 60%～79% ウ 40%～59% エ 20%～39% オ 20%以下

9-3 活動の負担や大変さを感じた生徒の割合

ア 80%以上 イ 60%～79% ウ 40%～59% エ 20%～39% オ 20%以下

10 今後の課題を自由記述をお願いします。

「お願い」

- 1 回答上、ご不明な点がございましたら、下記へ連絡ください。
 - 2 「総合的な学習の時間」「課題研究」に関しまして、参考として、提供いただける計画書、報告書、実践記録などがありましたら、下記へ連絡ください。不在が多いので、メール連絡いただければ幸いです。
- 大変申し訳ありませんが、□月□日 までにメール返信で回答ください。

東海大学課程資格教育センター ○ ○○